

第 2 回遊水地保全・再生及び人々の交流・教育・普及啓発検討合同部会

日時：平成 28 年 11 月 24 日午後 3 時 50 分～5 時

場所：遊水地会館

■WG I 「外来種対策について」意見要旨

①対策の対象とする外来種

- ・ザリガニ、ウシガエル（環境学習フィールド3に生育）、ブラックバス、ブルーギル
- ・セイタカアワダチソウ、アレチウリ、ブタクサ、ヤナギ、クズ、ナガミヒナゲシ

②対策について

- ・外来種といっても多数あるため、特定外来種に絞るべき
- ・ヨシに影響のあるクズなども対象とするのがいいのでは
- ・現在入ってきていないが、今後入ってきそうなナガミヒナゲシの予防について早めの対策が必要
- ・ザリガニは数が多く対策が難しい
- ・ブラックバス、ブルーギルは釣ったらリリース禁止などの対策
- ・看板で外来種についてPRし除去してもらう
- ・第2調節池以外でのセイタカアワダチソウの除去作戦をやってほしい
- ・特定外来種は抜くだけでなく、処理の方法まで周知する
- ・すべてを除去するのは不可能に近いので、水を入れたり、焼く作業を行うことが重要
- ・ヨシ焼きを中断（震災後の2年間）外来種が増加した。燃え残しのないようにするのが重要
- ・ヨシ焼きの継続が必要不可欠
- ・琵琶湖で外来魚の回収ボックスを設置して処理している
- ・外来魚を持ち込まないようにPRすることが重要
- ・看板等でキャッチ&イートといった内容で周知を図る
- ・希少種がなく、立ち入ってもいい場所をわかるようにする
- ・除去活動箇所に優先順位をつけたり、希少種の生育エリアの保全等周知をする

③資料の作成について

- ・パンフレット等に掲載し啓発する

- ・ 遊水地に特化した外来種パンフレットを作成し配布する

④次回に向けて

- ・ パンフレットで参考になるものを調べる（環境省の関東版パンフレット）
- ・ 外来種の対策について成功事例の詳細を調べる（琵琶湖の外来魚ボックス）
- ・ 外来魚を魚粉にし活用しているところもある
- ・ パンフレットをどのようにPRしていくか